

フォトアルバム



AAO (Las Vegas)

折原雅史先生 (忘年会にて) Distinguished Contribution 受賞

司会の柳沼重晴先生 (忘年会にて)

高橋伸子さん 感謝状授与 (忘年会にて)

井上真先生 ポスター発表 (AAOにて)

伊東裕二先生 ポスター発表 (AAOにて)

北善幸先生 ポスター発表 (網膜硝子体学会にて)

佐野公彦先生 ポスター発表 (網膜硝子体学会にて)

江本宜博先生 ポスター発表 (網膜硝子体学会にて)

イベント情報

<第7回東京多摩眼科連携セミナー>

2016年4月16日 (土) 14:30 ~ 17:00 場所: 杏林大学 大学院講堂

会費: 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「温故知新、IgG4関連疾患 — 21世紀に日本から発信された概念 —」 梅原 久範 先生 (林病院 北陸リウマチ膠原病センター)

<8th Eye Center Summit>

2016年5月14日 (土) 17:30 ~ 20:00 場所: 丸ビルホール&コンファレンススクエア7F 「丸ビルホール」(場所にご注意ください)

会費: 2,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

講演1 「フルオレセインマジックの世界」 大橋 裕一 先生 (愛媛大学 学長)

講演2 「計量解析で明らかになる新たな病因論」 坂本 泰二 先生 (鹿児島大学大学院医歯科学総合研究科眼科学 教授)

<第59回東京多摩地区眼科集談会>

2016年10月22日 (土) 14:30 ~ 16:30 場所: 杏林大学 大学院講堂

会費: 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「白内障手術関連(仮)」 永原 幸 先生 (東海大学医学部付属八王子病院 教授)

<第18回西東京眼科フォーラム>

2016年11月16日 (水) 19:00 ~ 21:00 場所: 吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間

会費: 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「角膜疾患関連(仮)」 島崎 潤 先生 (東京歯科大学市川総合病院眼科 教授)

編集部からのコメント

海外留学は研究以外にも様々な経験ができます。帰室した伊東先生ご夫妻が、その経験を生かしてアイセンターの活動を刺激してくれると思います。若い先生方は、留学も考えてください。また、高橋先生がVRフェロウとして参加しました。医科歯科の優等生という噂に違わぬ頼もしい「いい男」です。どうぞよろしくお願いいたします。

(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

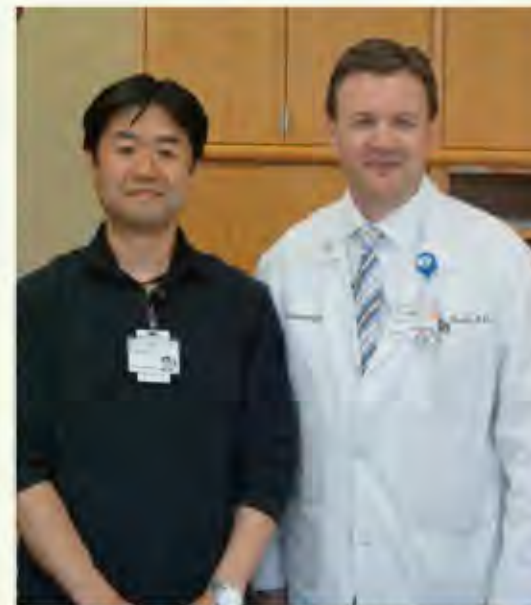
vol. 47
Spring
2016

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆留学報告 (伊東 裕二)<1-3>
- ◆New Fellow の紹介<3>
- ◆フォトアルバム<4>
- ◆イベント情報<4>
- ◆編集部からのコメント<4>

<執筆者: 括弧に明記 production: 渡邊交世、堀江大介、仲高みずき>

留学報告(伊東裕二)



Dr. Dan Martin と (Cole Eye Institute の chairman)

2013年7月から2015年6月までの約2年間、米国オハイオ州にあるクリーブランドクリニックで研究留学させていただきました。

渡米の5か月前から留学準備を始め、現地とのやりとりや出国手続き、ビザの取得など初めて経験する事ばかりで、出国前は割と忙しかった記憶があります。さらに2人目の子供が生まれたのが6月の終わりでしたので、そこから追加の手続きに奔走して、当初の予定より3週間遅れて何とか渡米出来ました。ちなみにパスポートの写真には生後2日目の写真を使いました。

クリーブランドはアメリカ5大湖の1つ、エリー湖の南岸にある人口40万人程度の都市です。小さい都市ですので日本からの直行便は無く、大きな空港から乗り継いで行きます。飛行機でクリーブランド・ホプキンス空港に着陸する際、広大なエリー湖を眼下に眺めながら降りて行きます。あまり行かれる方もいないと思いますが、冬はシカゴで乗り継ぐと雪で止まってしまう事がよくありますので、ロサンゼルスやヒューストン等、割と暖かい所で乗り継ぐのがポイントです。デンバーでも乗り継げますが、後にも先にも1度だけデンバーで手荷物

検査を受け、(隠し)持っていた娘の離乳食やレトルト食品を全て没収されましたのであまりお勧めできません。クリーブランドは比較的田舎なのですが、元々田舎育ちの私にはむしろ丁度よく、田舎のせいかな当たりも良かったように思います。食べ物は海産物があまりなく、スーパーに売っているのは(あまり新鮮ではない)エビ、ホタテ、タラ、タラバガニぐらいで、滞在中美味しい海の幸にはほとんどありつけませんでした。しかし農作物や肉は安くてまああおいしく、近くの農場で採れたてのトウモロコシを食べたり、肉は赤味の肉ばかりですがその辺のスーパーでも割とおいしい肉を購入できました。スターバックスのホットコーヒーは1杯1.5ドルでしたのでほとんど毎日飲んでいました。

留学報告(伊東裕二)

気候の面では5月～9月は本当に気候が良く、日本のように湿気もありませんので過ごしやすかったです。家族で色々な所に出かけました。少しずつ記憶が薄れてきていますが、どれもとてもいい思い出になりました。しかし10月から急に寒くなり、4月までは雪も降り、冬が長く寒さが厳しい所でした。滞在中の最低気温は-26℃まで下がりました。しかも渡米した年の冬は50年に一度の大寒波に見舞われ、連日-20℃前後まで冷え込むような時期もありました。雪はどか々と降ったりぱらぱらと降ったりですが、一度雪が降ると中々冬の間は雪が溶けませんので、5月ぐらいになって雪が溶けてくると道路がとても広く感じました。



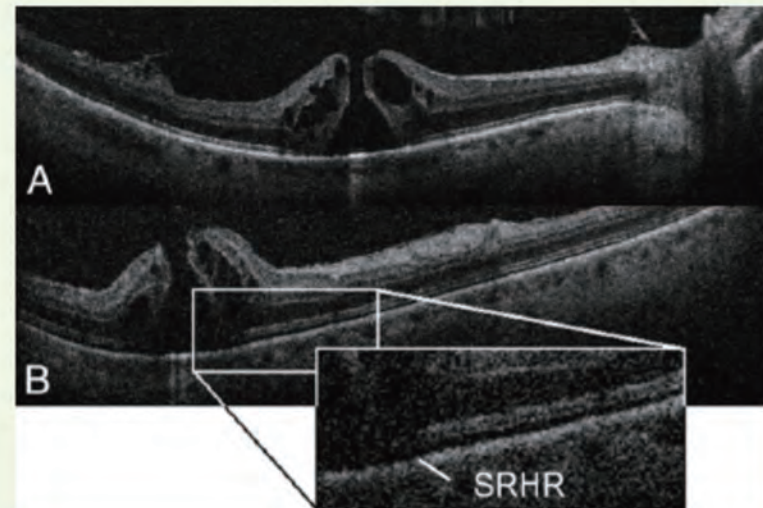
毎日車の雪を落として出勤



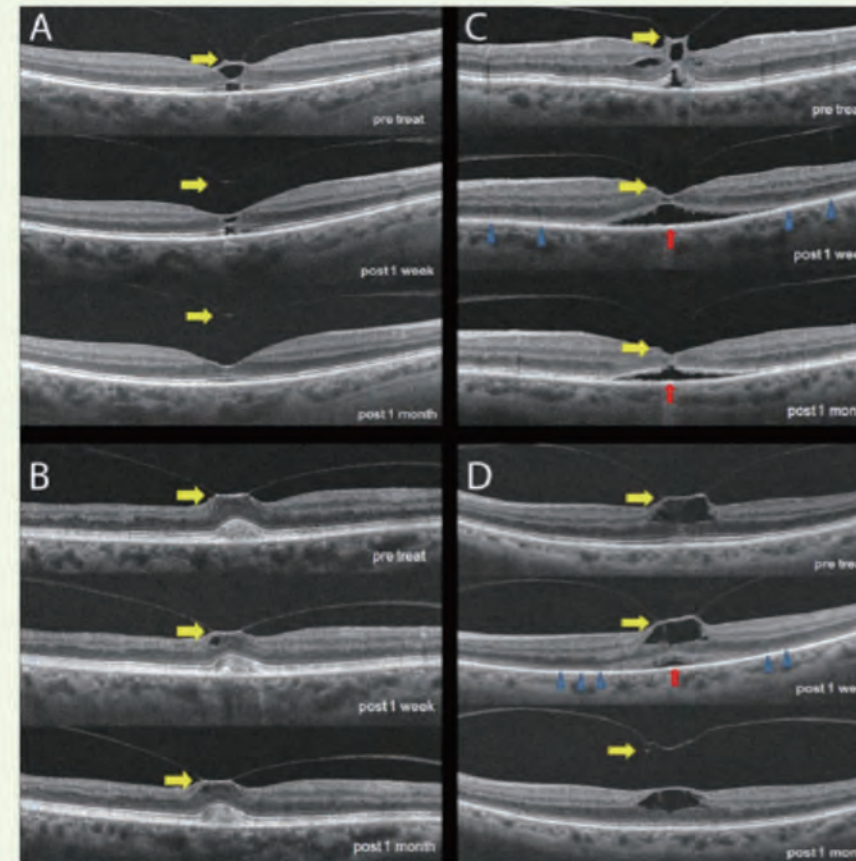
冬はエリー湖が凍ります

住居は The Hamptons Luxury Apartments というアパートを渡米時既に確保してもらっており、家財道具も現地在住の方に前任から頂いた物を預かってもらっている状態、車も2台既に日本人の方から購入済みでしたので、体一つで来るようなご家族よりは恵まれていたと思います。ただ、現地で生活を立ち上げるのが予想はしていましたが大変でした。電気会社と契約、インターネット開設、運転免許取得、車の registration、保険への加入、銀行口座開設、social security number の取得、などなど。まだ時差ボケがある中で言葉もよく分からず、いつになったら全部終わって普通に生活ができるようになるのかと少し疲れた時もありましたが、手続きに関わってくれた皆さんがとても優しく接してくれて助かったのを覚えています。

クリーブランドクリニックでは主に術中 OCT 画像を用いた臨床研究を行いました。杏林でも2015年8月から OCT 付き顕微鏡が導入されましたが、現地では数種類の OCT 付き顕微鏡が導入されており、プロジェクトもとても多くて臨床研究が盛んでした。写真1は黄斑円孔の症例の術中 OCT 写真です。Aが ILM を剥離する前、Bが剥離した後の写真ですが、ILM を剥離・除去した時の網膜にこのような変化が生じているのを OCT 画像で確認できた時は感動でした (Subretinal hyporeflectivity)。

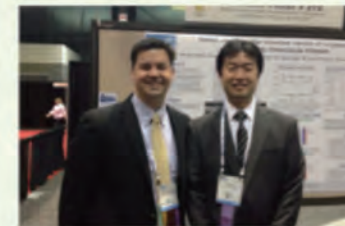


また術中 OCT ではありませんが、Ocriplasmin を硝子体注入した際の網膜構造の変化についても勉強する機会がありました。黄斑硝子体牽引症候群や黄斑円孔の症例に対して投与します。奏功すれば手術を受けることなく硝子体の牽引が解除される、といえは良さそうに聞こえますが1ショット4000ドルしますし、症例を選別して投与しても効果が得られない事もあり、さらに図C、Dのように視細胞や RPE への毒性とも思われる副作用 (Ellipsoid zone loss や SRF の増加) を認める症例も多々あります。近年 SF6 や C3F8 でも一定の割合で効果があるという報告が出ていますし、自分が患者なら Ocriplasmin を第一選択にはできないかも知れません。さらなる改良を期待します。



私は主に Justis Ehlers 先生という同じく網膜専門の Dr についていましたが、彼はとても臨床能力が高い上、臨床研究にも精力的で、リサーチをいつも頭において診療しているような感じの人でした。その他の臨床医も日本と同様忙しくしていますが、アカデミアにいる人間は臨床も研究も両立するべきだというのが感じてとれ、その点共感できました。ただ向こうのスタッフには「本当の」研究日 (臨床を全くしない) が週に1日～2日あり、とても研究がしやすい環境でもありました。

留学中は家族と一緒に過ごす時間が沢山あり、家族の在り方を考える事が多くありました。そして、仕事やその他多くの問題を自分が乗り越えて行けるのは家族という基盤があるからこそ、と思える様になりました。最後に、東京にもアメリカにも付いてきてくれた妻、子供達に感謝して私の留学報告を終えたいと思います。



AAO ポスター前にて

New Fellow の紹介(高橋洋如)



1月よりVRフェローとして勤務しております高橋洋如(ひろゆき)と申します。東京医科歯科大学を平成19年に卒業し、母校の眼科に入局いたしました。医科歯科大では、白内障手術や、教室の特色でもある強度近視やぶどう膜炎の診療に携わりました。眼科専門医を取得した後、網膜硝子体手術に本格的に取り組みたいと思い、アイセンターでのフェローシップを希望して、現在に至ります。アイセンターに来て抱いた印象は、網膜硝子体に限らず、前眼部から眼付属器まで優れた臨床医が揃っていることと、地域の中核病院として、さらには重症患者の最後の砦として、各自が高い意識を持って働いていることです。スタッフの一員として働かせて頂けることを光栄に思います。勤務するにあたっては、学ぶ者として謙虚な姿勢を持ちながら、後輩の先生に自分の持っている知識や経験を伝えたいと思っています。メリハリをつけて、公私楽しくがモットーです。よろしくお願いいたします。